

巻頭言

技術センター長 藤久保 昌彦



平成19年度は、広島大学技術センターにとって大きな変革と進展の年となりました。まず、部門編成をこれまでの部局別編成から、情報、工作、環境管理、理工学系、医学系、フィールド科学系という部局横断の機能別編成に改めました。これにより全学技術センターとしての位置づけがより明確になり、機動性も向上すると思います。また情報セキュリティー支援など全学サービスも具体的に動きだし、センター化の意義が外部からも認められつつあります。さらに、業務依頼・派遣システムの全容が固まり、平成20年度からいよいよ試行運用の運びです。組織一元化による技術支援の充実というセンター化の目的達成に向け、一致協力して邁進したいものです。

一方で、組織的支援体制が動き出した今こそ、今一度原点に戻って技術支援のあり方を考える必要を感じます。組織的な支援であれ個別支援であれ、それを支えるものは職員一人一人の技術と技量であるということです。優れた組織は優れた個人により作られるものであり、その逆はありえません。業務によっては、組織化とは余り縁のない業務もあります。それらを含めて、まずはこれまで通り日々研鑽を重ね、今現在の業務をしっかりと果たすこと、その上で組織化を利用して、可能なところから支援の幅を広げるよう努めていくことが大切であると思います。

このたび第4号を迎えました技術センター報告集は、技術職員の個人あるいは組織としての日々の努力の成果をまとめたものです。報告集を通じた幅広い技術分野の交流こそ、センター化の最大のメリットの一つではないかと思えます。読者の皆様には、本報告集を通じて広島大学技術センターの活動内容を広くご理解いただくことができれば幸いです。

最後に、本報告集の編集にご尽力いただいた木野村愛子委員長を始めとする技術センター報告集編集委員会の方々、そして種々ご援助いただいた学術部学術推進グループの方々に厚くお礼を申し上げます。

平成20年3月